

大杉谷国有林からの手紙

14通目 ～春を待つ手紙～

ここ尾鷲では、日ごとに春を感じる日が多くなってきましたが、私たちの仕事場である大杉谷は、まだ季節は冬です。

唯一のアクセス道である大台林道も所々の吹きだまりにまだ雪が残っているので、奥山へ行くのにも一苦労です。

そんな大杉谷も、ひと月前には、枯れたようになっていた枝が徐々に青みを帯び、林道脇で小さな花を見つけることが多くなってきました。

森林の木々や草花たちも私たちと同じように春に向けた準備を少しずつ進めているのですね。

このように、大杉谷は、まだ準備中ですが、4月の山開きになれば、今シーズンも、たくさんの皆さんが、大杉谷を訪れ、「新たな発見や出会いをしてもらえるのかな」と今から楽しみにしています。

そこで、今回は、多くの皆さんに「大杉谷の魅力」を知ってもらうため、日頃から大杉谷に関わっている方々に、大杉谷のお勧めの場所や楽しみ方を紹介してもらうことにしました。

まずトップバッターとしてお願いしたのは、日頃から、大台ヶ原を中心に大杉谷の自然を見守りながら、吉野熊野国立公園の管理をされている環境省（近畿地方環境事務所）吉野自然保護官事務所の菅野自然保護官です。菅野さんとは、二ホンジカから貴重な森林生態系を守るための取組を連携しながら進めています。



大台林道にはまだ残雪が・・・



岩壁を削ってつくられた登山道（大日ヶ原周辺）（菅野氏提供）

「大杉谷は日本三大渓谷に数えられ、堂倉滝、七ツ釜滝、千尋滝などの雄大な滝と淵、切り立った岩壁が連続するスケールの大きな景観が、我が国でも屈指の渓谷美を誇り、吉野熊野国立公園として、その保護と利用の推進が図られている場所です。私のお奨めは、ここ大杉谷にある少し上級者向けの登山道で、だいたい

1泊2日の行程で山登りを楽しむことができます。この登山道、スタートした直後から、いきなりスリリングな体験が・・・それは、大日嵩（だいにちぐら）という岩壁を削った道で、鎖を伝って歩くこととなります。この後も、岩壁をくり抜いたり、削った道を歩いて登ったり、長大な吊橋を渡ったり、大きな滝や淵を眺めながら、時にはエメラルドグリーンの水を眼下に見つつ、進んでいきます。中でも、私のお気に入りのシシ淵。両側にそびえ立つ岩壁に深い淵、遠くにはニコニコ滝が神々しく見え、まさに自然が織りなす造形美を感じます。その他にも、平成16年の大水害により崩壊し、大岩が積み重なった上を越えて行く場所（光滝周辺崩壊地）があった



お気に入りの絶景ポイントのシシ淵（菅野氏提供）

りと随所に、冒険心をくすぐられる所が満載です。また、忘れてならないのは、道中にある「桃の木山の家」と「栗谷小屋」の2軒の山小屋、美味しい食事や宿泊、休憩をすることができ、疲れを癒やせます。リフレッシュしてゴールにある三重県の最高峰、日出ヶ岳（1695.1m、大台ヶ原）までの貴重な時間を楽しんでください。

最後に、このように見所満載の大杉谷の登山道は、より安全に歩けるよう、地元の方々や関係者、行政によって、丁寧に管理や補修が行われていますが、毎年、滑落などの事故が起きている状況もあります。十分な体力と装備、経験・知識・技術を備えて、ルールを守って楽しく、大杉谷を満喫して頂ければと思います。」

菅野さんには、三重県多気郡大台町から大台ヶ原までの登山道の魅力を紹介いただきました。この登山道は、大杉谷国有林の核心部分を歩いて、大自然の神秘を感じただけの道ですが、お話にもあったように非常に厳しい自然条件下で切り開かれた登山道ですので、必ず登山届を出した上で、気をつけて楽しんでください。なお、栗谷小屋付近では、一部分、大台林道を歩いていただく箇所もあります。このため、私や森林整備をしている職員とお会いすることがあるかもしれませんが、その際はぜひ気軽にお声をかけてください。

今後とも、このような形で、大杉谷を通じてお知り合いになった皆さんに、いろいろなお話を伺い、皆さんに大杉谷をもっと身近に感じてもらえればと考えています。

最後に、今シーズンの山開きは4月21日（金）の予定です。心よりお待ちしております。

山開き情報は、大杉谷登山センターホームページ (<http://www.oosugidani.jp/index.html>) まで！

（発行：三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官）